

H.C.R. 2016 福祉機器利用者アンケート 回答の概要

1. 福祉機器情報の入手方法 (※複数回答可)

福祉機器情報の入手先については、2015年の前回アンケートに引き続き「福祉機器常設展示場」が21%と最も多く、次いで「介護ショップ」が12%、さらに、「販売会社営業担当者」が9%という順になりました。機器を実際に見て、触れることができる点はその背景にあるものと推測されます。続いては、「各企業のホームページ」と「H.C.R.福祉機器情報サービスホームページ」が8%で並ぶという結果となりました。

前回アンケートに比べて「介護ショップ」が2ポイント増加したほか、ホームページ関係から情報を入手するという回答がここ数年上位に定着しつつある一方で、「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」、「社会福祉協議会」、「市町村役場」などが微減しています。

2. 相談窓口 (※複数回答可)

福祉機器を購入・レンタルするときに相談した窓口としては、2011年のアンケートから6年連続で「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」が最上位で、前回比でも2ポイント増の25%となりました。続いて、これも前回に引き続き、「販売企業の営業所窓口／営業員」が1ポイント増の22%となりました。

さらに、「市町村役場」が13%から15%へと伸びを見せた一方で、「医師・病院」が前回の11%から9%、「障害者福祉施設」が6%から3%、「ホームヘルプ事業者」が8%から7%、「福祉機器常設展示場」が8%から7%へと、それぞれ微減する結果となっています。

3. 福祉機器の利用にあたって 望まれること (※3つまで選択可)

福祉機器の利用については、今回のアンケートでもさまざまな意見・要望が確認されましたが、最上位は「操作のしやすさ」が前回比で6ポイント増の27%となり、次いで「安全性」が19%という結果となりました。特に「操作のしやすさ」については大幅な増加で、利用者の高齢化とともに、操作のシンプルさや分かりやすさに対する要望が高まってきているものと考えられます。

また、3番目は「価格の安さ」の15%で、これらの3つの項目が上位を占める形がここ数年定着しています。また、一方で、「機能・操作が複雑でないこと」や「試用ができる」なども前回アンケートからそれぞれ1ポイント増加している点など、シンプルさと同時に利用する際のニーズの個別化が進んでいることが結果に反映されたものと思われます。

4. 福祉機器の開発や 利用についての意見・要望

「価格の安さ」を求める声は例年に引き続き多数寄せられました。このほかにも、「操作の簡便さ、シンプルさ」や「安全性」についての要望をはじめ、多岐にわたる回答が集まりました。

特に、単に安価を希望するというだけでなく、メンテナンスや修理、試用、レンタルやリースなど、具体的な費用負担の軽減についての対応や制度化などを求める声も、ユーザー、介護者、病院・施設などの現場関係者のそれぞれから寄せられました。

また、ユーザーのニーズの個別化や多様化がますます進むなかで、細かな使い勝手やデザインなどについてさらなる配慮を求める意見も多数ありました。

そして、本人により適合した製品の入手をめざすにあたっての情報提供の方法について、各地域で機器を常設展示する施設や設備を増やすことと充実を求める意見、さらには、製品を見つけ出すまでからアフターサービスまでのシステム化や、各企業の広報、営業体制の見直しや充実を求める指摘など、さまざまな声が届けられました。

- ① よりデザイン性の高い製品を希望します。特におむつ関係などは、実際に使用した際のことをもっと配慮して、日本人の体に合うものを開発してほしいです。
- ② 介護保険対象外でも対応、利用できる福祉機器について、より多くの情報提供を希望します。
- ③ 開発ももちろん大切ですが、定期的なメンテナンスや修理、衛生上の管理などについてももっと充実させてほしいです。簡単に掃除ができて長く使えるなどという観点も、重要だと思います。
- ④ 製品の色や配色などが、使っている者の服装などと合わないことが多いと思います。せめて一般の製品と見分けがつかないくらいデザインセンスを望みます。
- ⑤ 人間の身体や運動の機能を十分配慮していない製品もまだ散見され、ムリな動作を余儀なくされることがあります。全身の動きを考えて機器の設計をしてほしいです。
- ⑥ 毎年展示会に参加させていただいていると、製品の進歩や充実ぶりが分かります。ただ、一般の利用者には、本当に自分に合った機器の購入や利用にまだなかなか結び付いていないという側面もあります。製品情報の提供や広報、営業などについて、見直しと拡充をお願いしたいです。
- ⑦ コミュニケーションツールがまだまだ足りないと思います。該当の製品を出展している企業のスタッフに要約筆記ができる機器はあるのかと尋ねたら、逆に「要約筆記って何ですか?」と聞かれてしまいました。利用する側の立場についてのリサーチ不足です。開発の前段階での、十分な情報収集が必要だと思います。
- ⑧ 施設現場ではスタッフのシフトでの入れ替わりなどもあるので、利用者様が使用される機器については、極力操作が簡単なものがよいと思っています。
- ⑨ 一部の企業への指摘ですが、商業主義的に製品モデルをコロコロ変えていく商法はよくないと思います。闇雲な開発によってモデルチェンジ、リニューアルが頻繁に行われ過ぎることは、ユーザーにとってはデメリットになります。
- ⑩ ここ数年、福祉機器のリースなどを取り扱う企業の担当者の知識や技術力に不足を感じます。もっとプロ意識を持っていただきたいですし、利用者側の立場に立って適切なアドバイスをできるようにしてもらいたいです。
- ⑪ 子どもや動物をモチーフとしたコミュニケーションロボット需要はますます高まると思うので、もっと安価に入手できる方策を検討してほしいです。

- ⑫ やはり安全性が第一です。そして、介護者はもちろん、メカには疎い高齢の利用者にも使い方が分かりやすい、操作が簡単な機器がありがたいです。
- ⑬ これからは地域包括ケアの時代なので、医療部門とリハビリ部門との協同での製品開発にもっと力を入れてもらいたいです。
- ⑭ 腰痛をはじめ、介護現場の職員の職業病が軽減されるような機器がもっと開発されることを望みます。そのためには、メーカーの皆さんがもっと現場に足を運んでいただきたいです。
- ⑮ 機器の導入にあたっての価格の問題は、施設現場でも予算が削減され、厳しくなってきました。ましてや、在宅の皆さんは相当な苦勞や断念をされているものと思われまます。
- ⑯ 軽度者が使用する福祉用具が介護保険の対象から除外される動きがありますが、各企業の開発の重点から外れてしまいはしないかと心配です。
- ⑰ 製品開発にあたり、施設現場に対するアンケートなどを実施してみてもいいのではないのでしょうか。口腔ケア用品やおむつなど、使い勝手に関して反映させてもらいたい意見はたくさんあります。
- ⑱ 近隣で福祉機器を常設展示してくれる施設がもっと充実し、増えてくれることを望みます。
- ⑲ 軽さとコンパクトさと収納力は、全ての製品を網羅する重要なテーマだと思います。より念頭において、開発していただけることを期待します。
- ⑳ 今年の国際シンポジウムのテーマは障害者の権利擁護でしたが、障害者の社会参加の促進や差別の解消が進むなか、高齢者の製品だけではなく障害者向けの、特に知的障害や精神障害の方の生活を支える器具や用具の開発に力が注がれるようになることを希望します。
- ㉑ 在宅での介護のケースがますます増えていく時代に、介護ロボットばかりに力を注いでも程遠い世界のようにしか思えません。実態を踏まえた用具の開発とのバランスが必要だと思います。
- ㉒ 車いすの座りやすさ、適合性をよくする方向のさらなる開発を望みます。シーティング機能について高める研究を、もっと進めてほしいです。
- ㉓ 要介護者の重度化が進むにつれ、寝返りと排せつは、介護者にとってますます重い負担となっています。自動寝返り、自動排せつが、さらに大きな課題になってくると思います。
- ㉔ 新製品もよいですが、ユーザーの経済的な能力やエコの面での効果も考えると、機器の再利用（リサイクル）の制度の促進やリサイクル業者への支援策などについても考えてほしいです。
- ㉕ とりわけ地方部では、機器の情報などが限られてしまっています。より本人に合った製品を見つけ出すことや、購入後に問題などをスムーズに問い合わせできるシステムを確立してほしいです。
- ㉖ 病院や施設では新製品の購入の財源に限度があるので、古くなった機器を心もとないメンテナンスでいつまでも利用している傾向が強く、快適で安全な使用には問題があるケースもあります。施設や病院でも、優良な最新の機器を患者や利用者に合わせて試用できる制度が必要だと思います。
- ㉗ 利用者がより多くの選択肢から軽負担で機器を選べることをめざすとすれば、製品の試用とレンタル、リースの制度の拡充が求められると思います。

